

紫峰

佛教大学教育後援会報「紫峰」

第117号

平成23年1月発行



佛教大学公式マスコット
キャラクター決定!!

開学100周年記念事業の一貫として、有志学生グループが中心となって制作。10月23日(土)の創立記念日に公式マスコットキャラクターとして発表されました。今後、みなさまから愛されるキャラクターとして佛教大学と共に成長していってほしいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

目次

- | | |
|-------------------------|----------------------------------|
| ●1頁……………公式マスコットキャラクター | ●17～19頁……………キャリア支援部だより |
| ●2頁……………会長の御挨拶 | ●20～21頁……………コミュニティキャンパスだより |
| ●3頁……………学長より御挨拶 | ●22～23頁……………宗教教育センターだより |
| ●4頁～7頁……………佛大トピックス | ●24～25頁……………その他の催し案内 |
| ●8頁～11頁……………教育後援会事務局だより | ●26頁……………キャンパス整備計画 |
| ●12頁……………教学部だより | ●27頁……………佛教大学・佛教大学附属幼稚園計算書総括表 |
| ●13～16頁……………学生部だより | ●28頁……………学年暦(12月～3月)・教育後援会会則(抜粋) |

※次号は、平成23年6月発行予定です。



「花は無心に」

教育後援会会長 河内 良純

新年おめでとうございます。

本年も教育後援会活動にご理解、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成22年度の教育後援会事業も大学の教職員の先生方、会員の皆様のご支援のもと、計画通り進行中でございます。事業の中でも大学における学生生活や、学生の将来の進路につながる就職事情などを、保護者の皆様にも良くご理解いただける教育懇談会には、多くのご参加を賜りました。厚く御礼申し上げます。

さて、私事でございますが、仏様への供花や生け花をするときには、どのように活ければその花の美しさが引き立つだろうかと、一本一本の花をじっくり眺めます。その花の清冽さや、ほのかに漂う清らかな香り、溢れ出る生气などによって、心が豊かになり、無心に咲く花の姿に気持ちが和みます。そして、江戸時代の歌人・書家として有名な僧、良寛和尚の「花は無心にして蝶を招き 蝶は無心にして花を尋ぬ 花開く時蝶来り 蝶来る時花開く」云々、という詩が浮かんできます。

この言葉は、大自然の妙味を通して人の生き方を詠ったものです。この句での「無心」とは、何の計らいもなく、ありのまま、自然の法則のままという

事でしょう。花も蝶もただ一生懸命に命の営みのために精一杯生きている。誰の為にでもなく無心に咲く花に、蝶もまた無心に蜜を吸い花粉を運ぶ。お互いの存在がその立場に応じて助け合い、またそれぞれの役割でつながり、切っても切れない関係になっているのです。人もこの大自然の姿のように、多くの人とつながりの中で調和を保ち、そして支えられながら生かされることを、この言葉から伺い取ることができます。

私にはこの「花は無心に・・・」という詩の中の花と蝶の姿が、仏教精神を建学の理念として無心に咲く佛教大学と、その学舎に集う学生や有縁の方々の関係に重なって映ります。

「花開く時蝶来り 蝶来る時花開く」というように。

既にご承知の通り、佛教大学は2012年に百周年の節目と新たな始まりを迎えます。その記念事業として、学部構想やキャンパス整備など、さらなる教育環境向上のための取り組みが成され、新たな始まりとともに大きく伸展します。今まさに、「花開く時」であります。

学生の皆さんには次の百年に向けての学びの場で、多くの人と出会い、人とつながる大切さや、人と人とのつながりに縁（えにし）を感じながら、心豊かに充実した学生生活を送っていただきたいと願っています。

本年も皆様にとりまして、幸多き年になりますことをお祈り申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。

「開学 100 周年に向けて」

学長 山極 伸之



あけましておめでとうございます。

佛教大学教育後援会会員の皆様におかれましては、平素より本学の教育活動全般に関しまして、一方ならぬご理解ならびにご支援を頂戴いたしておりますこと、大学を代表し、あらためてお礼申し上げます。

ご承知のとおり、本学は2012年に開学100周年という節目を迎えます。私たちは、開学以来一貫して、仏教精神にのっとり、自分自身をしっかりと見つめつつ、生まれてから死ぬまでの人間のライフステージの中で様々な悩み苦しむ人々の存在をしっかりと捉え、そのような人々のために活躍し、社会に貢献できる人材、素晴らしき「佛教大学人」の輩出を目指して、本学学生の学びの支援につとめてまいりました。

とりわけ、一昨年4月の学長就任に際し、私は「学生を中心とした大学」の創造を目標に掲げました。それ以来、一貫して「学生こそが大学の主役」を合い言葉に、この理念のもと、大学構成員が一丸となって様々な取り組みに着手しているところであります。基本的には4年、場合によってはそれ以上の年月を佛教大学で送ることになるすべての学生にとって、学生生活が有意義で充実したものとなることを私たちは念願しています。

昨秋の創立記念日に、開学100周年に関わる記念事業の一つとして、佛教大学の公式マスコットキャラクターを選定いたしました。報道やHPのお知らせなどで既にご承知の方も多いことと思いますが、このキャラクターの選定にあたっては、公募から学内での審査、そして最終決定から発表のイベントまでのすべてを、本学学生によって構成されるプロジェクトチームが担ってくれました。チームに属する学生たちは、全国から1374点もの応募作品を集め、本学らしい素敵なキャラクターの選定という成果に結びつけてくれたのです。大学は、このような学生の主体的な活動を支え、学生自身の成長を見守

りながら、一緒に未来に向けての大学づくりを行っていきたくと考えています。

学生たちのこういった活動は、社会に出て行く際に必要とされる、様々な「人としての力」を準備することにも役立ちます。大学卒業後の就職難がクローズアップされる昨今、保護者の皆様が一樣に心配されるのは、進路や就職の問題でありましょう。経済状況が不安定な中、しばらくの間は、就職問題への対応は避けられないと思います。しかし、このような時代であるからこそ、社会から求められる「人としての力」を身につけられるように、大学はインターンシップ、フィールドワーク、ボランティア等の多様なプログラムを提供しています。そして、それらの体験を通じて、学生が実社会において主体的に学ぶことができるよう支援を行っています。

また昨秋は、陸上競技部女子中距離部門の全日本大学女子駅伝対校選手権大会二連覇、そして硬式野球部所属の大野雄大選手のドラフト一位指名という二つの朗報により、大学関係者一同が喜びに包まれました。学生にとって最も重要であるのは正課の学業ですが、学生生活における学びや体験の場はそれだけではありません。本学は、課外活動も重要な人格形成の場であると考え、学生の自主的な判断に基づく活動を大学として支援してまいります。

このような大学の取り組み全体に関しまして、あらためて皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。



第28回全日本大学女子駅伝対校選手権大会

笑顔で駆け抜けた杜の都

大会新2時間2分44秒で

2連覇!!

10月24日(日)、杜の都(宮城県仙台市)で大学女子駅伝の日本一を決める「第28回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」が開催され、本学は2時間2分44秒で2年連続優勝を飾った。



全員駅伝が勝利につながった!



この素晴らしい結果を振り返り森川賢一監督は、「多くの方々の支援や応援が大きなきな追い風となり、優勝することができました。この1年間2連覇への期待が重なり、目に見えない大きな壁となっていました。しかし、関西駅伝で負けたことにより、そこから解放されチーム一丸となって全員駅伝をできたことで今回の勝利につながったと思います。」と周囲への感謝とチームの成長を語った。

第28回全日本大学女子駅伝対校選手権大会

★は区間新	6区間 (38.6km)
1区・森知奈美 (2回生)	区間 (1位・18分24秒)
2区・石橋麻衣 (3回生)	区間 (2位・21分36秒)
3区・西原加純 (4回生)	★区間 (1位・28分56秒)
4区・川嶋利佳 (3回生)	区間 (1位・15分24秒)
5区・前田彩里 (1回生)	区間 (3位・13分10秒)
6区・吉本ひかり (3回生)	★区間 (1位・25分14秒)
2時間2分44秒(大会新)	
総合成績 優勝	



史上5校目の連覇を達成

レースは序盤、1区の森知奈美が中盤過ぎから抜け出すと、2区の石橋麻衣もそれに応え好走し、3区エースの西原加純主将に襷をつなぐ。西原は最長区間である3区9.1kmを区間新記録の走りです。以下以下の選手を突き放し、4区川嶋利佳へ。川嶋は初出場とは思えない見事な走りです。更にリードを広げると、5区の前田彩里へ願いをたくす。1回生で大舞台を任せられた前田は、プレッシャーを感じさせない順調な走りです。2位立命館大学と46秒差をつけ、今秋開催されるアジア大会女子1万m日本代表に選ばれている吉本ひかりへ襷をつないだ。吉本は2位との差を更に広げ、選手みんなが待つ仙台市役所前のゴールテープを満面の笑顔で切った。総合記録2時間2分44秒での優勝。昨年本学が樹立した記録を約50秒も縮め、大会新記録という素晴らしい結果を残した。

チームをまとめた西原主将

1年間主将としてチームをまとめてきた西原は、「個人的には故障続きで苦しい日々。チーム力を上げるためにも苦しんだが、今日のために頑張ってきたよかった。」と語った。
今年、2連覇を飾った陸上競技部女子中長距離部門。全国の大学女子駅伝チームの目標であり、今後も追われる立場が続く。しかし彼女たちは優勝しても努力は絶やささない。新たな記録を目指し、女王としての輝きを増していくであろう。



ドラフト1位!!

大野雄大投手

中日ドラゴンズ

指名

10月28日(木)に開催されたプロ野球ドラフト会議により、大野雄大(現代社会・4回生)が中日ドラゴンズからの1位指名を受け、プロ野球進出への大きな一歩を踏み出した。

昨年の京滋大学野球秋季リーグ、その後開催された関西代表決定戦で頭角を現した大野。その後開催された明治神宮野球大会では、彼の好投とチーム一丸のプレーにより全国ベスト4に輝いた。それ以来、彼の非凡な才能は、たちまち全国に広がり注目度・知名度ともに大学No.1左腕として呼び声が高くなっていった。今春、硬式野球部が練習する園部キャンパス野球場には、多くのスカウト陣が大野の投球を二目見るために集まった。その注目のなか開催された春季リーグでは、時速150kmを超えるストレートを武器にリーグ優勝。大野も最優秀選手賞・ベストナインを受賞し、全日本大学野球選手権大会へと駒を進めた。全国大会1回戦、プロ野球選手を数多く輩出する強豪、東北福祉大学を相手に大野は2安打完封でおさえ、当日集まった観客やスカウト陣を驚かせた。ここまで順風満帆の大野であったが、秋のリーグ戦では怪我の調整に時間がかかり、登板機会がないうまま、大学4年間の野球生活を終えた。

ドラフト会議当日、そこにはいつもと変わらない大野がいた。声をかけてみると緊張はなく、「子供の頃から憧れるプロのマウンドへの期待でワクワクしている。」と笑顔で答えた。ドラフト会議が始まると、大野はうつむいた表情のまま各球団の指名選手に耳を傾けた。今年のセントラルリーグ王者、中日ドラゴンズから1位指名を受けたとき、会場に詰め掛けた硬式野球部員や報道陣より歓声が起こった。周囲の歓声とは逆に大野は、冷静にその後のライバルたちの指名を見守った。

会見終了後、大野に今の心境を聞くと、「プロの世界は、とても厳しい。今のままではだめ。様々なことを学び、1試合でも多く試合に出たい。」と抱負を語った。大野は大学4年間で投手として、そして人間として大きく成長した。プロ球団に入団しても、大野雄大に暖かい声援を送り続けたい。



指定強化団体以外の課外活動結果報告

本学には 100 を越す課外活動団体（サークル含む）があります。全学生の約半数が課外活動に所属し、仲間と共に日々の活動に取組み、有意義な時間を過ごしています。今後とも課外活動の更なる充実を目指してまいりますので、ご理解・ご支援のほどよろしくお願いいたします。

平成 22 年度（11 月現在）の課外活動団体（強化指定 2 団体以外）の主な実績報告は以下のとおりです。

団体名	大会名	結果
空手道部	第 54 回全日本学生空手道選手権大会・東西対抗戦	市原 新也（人文 3）出場
弓道部	第 22 回全国大学弓道選抜大会	出 場
	第 34 回女子東西学生弓道選抜対抗試合	結城 碧（現社 4）20 射皆中で 大会最高的中、優秀選手賞受賞
剣道部	第 58 回全日本学生剣道選手権大会及び 第 44 回全日本女子学生剣道選手権大会	出 場
	第 58 回全日本学生剣道優勝大会	出 場
アイススケート部 男子アイスホッケー部門	第 83 回日本学生氷上競技選手権大会	出 場
ヨット部	第 19 回全日本学生女子ヨット選手権大会	大森 美季（現社 4）・ 岡原 桃香（理学 1）組 25 位
バドミントン部	全日本学生バドミントン選手権大会	浦谷 かおり（現社 4）・ 池下 知香（人文 2）組 出場
チアリーダー部	2010 ジャパンカップ チアリーディング 日本選手権大会	準決勝進出

（各課外活動団体からの報告分より主に全国大会レベルを掲載）



弓道部



剣道部



アイススケート部
（男子アイスホッケー部門）



チアリーダー部

テーマ『佛契～ぶっちぎり笑顔～』

期間：平成22年10月29日（金）～31日（日）

キャンパスが最もにぎやかになるイベント「鷹陵祭」が今年も開催されました。

今年のテーマの「佛契～ぶっちぎり笑顔～」には、勢いのある祭りを目標とし、『勢いのある祭り＝すべての人の笑顔』を意識して、鷹陵祭実行委員会が掲げました。テーマに沿った祭りを創り上げるために、老若男女すべての来場者の方々が笑顔になれることを目指し、熱意を持って日々遅くまで準備に取り組んできました。その熱い思いが天に届いたのか、鷹陵祭初日は、心配された台風の影響もほとんどなく、雨は降ったものの無事に開催することができました。

開催中、キャンパスは学園祭の装飾で普段の雰囲気とは全く違い、模擬店や教室内の企画、中庭ステージ企画等てたいへん賑わい、毎年恒例の吉本お笑いライブや本学の課外活動団体であるプロレス研究会によるプロレス興行に加え、3組のアーティストによるライブが行われるなど、どの企画も大盛況でした。

今年は例年と異なり、鷹陵祭前日が授業実施日であったことから、鷹陵祭実行委員たちも授業の合間を縫って準備に取り掛かり、また最終日の後片付けに関しても、大雨が降る中、次の日から始まる授業に影響がでないよう、手を休めることなく現状復帰に取り組みました。このように、限られた時間内での準備、さらには悪天候の中での片付けとなりましたが、その中でも自分たちができる最大限のことを考え実行し、見事に3日間の祭りを大成功へと導いたと思います。

最後になりましたが、ご来場いただいた皆様、ご協力いただいた関係者の皆様、ありがとうございました。来年も、学生たちがどのような「鷹陵祭」を創り上げるのかご期待ください。



鷹陵祭実行委員長 佐々木 翼 (中国学科2回生)



今年度で44回目となる鷹陵祭も、目標として掲げた最高の笑顔がキャンパス内の至る所で溢れる祭りとなりました。台風14号の影響であわや中止になるかという場面もあった中、無事に鷹陵祭を行うことができたのは、学生みんなが日々の練習や研究成果の発表へ向けて努力し臨んだ結果、その鷹陵祭への強い思いが来場者の方々、そして天に届いたからだと思います。第44回鷹陵祭は日程の関係で後夜祭がなかった等、全体を見ると例年と異なる動きが多く、経験も浅いため戸惑うことの多い一年でした。しかし、例年以上に学外とも積極的にかかわり、鷹陵祭をより広く社会に発信できたと確信しています。また、参加団体、支援者、来場者が重なり合って、たくさんの人が笑顔で楽しんでいるのを見て、祭りが成功していることを実感しました。

今回掲げたテーマ『佛契～ぶっちぎり笑顔～』は実現したと思います。だから、今回祭りを支えてくれた実行委員のみんなやご来場いただいた皆様、教職員の方々、関係者・・・あらゆる人にとって鷹陵祭に参加できたことはかけがえのない宝物となったと信じています。

教育懇談会開催



今年度の教育懇談会は、本学4回・学外8回の計12回開催し、昨年度より144組多い412組の参加をもって無事終了いたしました。多くの皆さまにご参加いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

さて、本学の教育懇談会は、大学と家庭との連絡を緊密にし、保護者同士の交流を深めることを目的として、父兄会（昭和62年度より教育後援会に名称変更）と大学との共催事業として昭和56年度から始められました。当時の会報には、本学2回・学外3回の計5回開催、大学からの現況報告および懇談会などを実施、とあります。その後は学生数の増加とともに開催回数や都市も増え、最近では年12回開催しています。

内容については、全体会と個別懇談会の二部構成を基本とし、全体会では教学・学生生活・就職（キャリア）の三部門より大学の取り組みについての説明や報告を、個別懇談会では個々の質問にお答えしています。

本学会場は、各学科教員と懇談する機会を設けたり、キャンパスの自由見学、喫茶・学食のご利用など、日常の雰囲気を感じていただけるように土曜日開催としています。参加者が多いために個別懇談の待ち時間が長くなったり、また保護者同士の交流もなかなか出来ないなど、改善が必要なところもありますが、終了後には、お子様と待ち合わせをして仲良く帰られる姿や、遠方から来られ「これから下宿をチェックしに行きます!」と言われる方もおられたりと、本学開催ならではの賑やかさがあります。地方会場では、家を離れて一人暮らしをしているという共通点があるためか、保護者同士の会話も弾み、連絡先を交換したり、「また来年会いましょう」と約束されている方々も見られます。

高校生の約5割が大学へ進学する時代になり、いわゆる一昔前の大学（大学生）とは随分変わってきています。4回生で初めて参加された方からは「もっと早くから参加していれば良かった。今回で最後なので残念です。」という声が多く聞かれます。「大学生にもなって」「もう一人前だから」と思われず、大学の取り組みを知っていただき、子どもとの接し方や親としてのあり方などを今一度考えていただく機会として、また保護者同士の繋がりの場として、この教育懇談会を利用いただければと存じます。

その他、今年度は教育懇談会の案内および申込み方法について、役員会・委員総会の承認を経て2つの変更を行ないました。一つは、これまで会報「紫峰」（申込書同封）を通じて行なってきた案内を『教育懇談会開催案内』として別途制作し案内すること、もう一つは、インターネットを利用しての参加申込みができるようにすることで、秋学期の申込みより運用を開始いたしました。特に、インターネットによる申込みについては、「申込み手続きが簡単になった」「申込受理がメールで届くので安心」と好評を頂き、来年度へ向けてもより一層ご利用いただけるように働きかけを行ないたいと思っております。

更に、開催日程については、これまで5月末の委員総会承認後にご案内を行うこととなっておりましたが、近年は教育懇談会を楽しみにされている方も増え、4月早々に日程の問合せをいただくことが増えてきたこともあり、来年度からは前年度の役員会で大学と調整のうえ決定することが今年度の総会で承認されておりますので、4月下旬公表を目処として日程調整を進めているところです。まずは、大学ホームページ「保護者の方へ」にて日程をお知らせし、その後に今年度と同様に『教育懇談会開催案内』をお送りいたしますので、ぜひともご予定いただき、来年度も多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

教育後援会事務局所管（総務部校友課長）
平尾 浩美

【平成22年度 教育懇談会開催状況一覧】

日程	都市	会場	参加数
① 6月20日(日)	福岡	福岡国際ホール	9
② 6月26日(土)	京都	佛教大学 常照ホール	97
③ 6月27日(日)	高松	高松センチュリーホテル	15
④ 7月4日(日)	金沢	金沢エクセルホテル東急	13
⑤ 7月10日(土)	京都	佛教大学 常照ホール	77
⑥ 7月11日(日)	津	ホテルグリーンパーク津	8
⑦ 10月2日(土)	京都	佛教大学 常照ホール	62
⑧ 10月3日(日)	広島	広島グランドインテリジェントホテル	11
⑨ 10月16日(土)	仙台	ホテルJALシティ仙台	11
⑩ 11月6日(土)	京都	佛教大学 常照ホール	68
⑪ 11月7日(日)	米子	ホテルハーベストイン米子	16
⑫ 11月14日(日)	奈良	エルトピア奈良(奈良労働会館)	25

※ 参加数は、組数を示します。

※ 平成23年度開催予定は、「教育懇談会のご案内」にてお知らせいたします。

＜平成22年度 教育懇談会アンケート（抜粋）＞

＜平成22年度教育懇談会アンケート集計一覧＞

開催日	6/26	7/10	10/2	11/6	6/20	6/27	7/4	7/11	10/3	10/16	11/7	11/14	合計	
開催都市	京都	京都	京都	京都	福岡	高松	金沢	津	広島	仙台	米子	奈良	12会場	
参加者数（組数）	97	77	62	68	9	15	13	8	11	11	16	25	412	
アンケート回収数（枚数）	38	41	31	30	6	5	9	6	4	5	10	5	190	
1. 会場形式について	適当	36	34	23	26	6	5	6	6	3	5	10	3	163
	ほぼ適当	2	7	5	4	0	0	2	0	1	0	0	2	23
	一考を要する	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
2-1. 開始時間について	遅い	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	適当	37	41	29	30	6	5	9	6	4	5	10	5	187
	早い	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2-2. 大学現況報告について	長い	2	1	0	2	0	1	1	0	1	0	0	0	8
	適当	33	38	25	24	6	3	8	6	3	5	9	5	165
	短い	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	5
2-3. 個別懇談について	長い	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
	適当	18	26	21	16	4	2	4	4	3	5	4	3	110
	短い	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5
3. 懇談部署（事務局のみ）	教学部	11	11	5	12	0	0	2	3	3	4	5	1	57
	キャリア支援部	6	8	9	5	3	1	5	5	1	4	4	3	54
	学生部	5	8	4	5	2	0	1	0	1	2	1	0	29
4. 教育懇談会に出席され、どのようなことがプラスになりましたか。														
5. 教育懇談会に出席され、もう少し説明を受けたかったことはどのようなことですか。														
6. その他、教育懇談会についてのご意見をお願いします。														

4. 教育懇談会に出席され、どのようなことがプラスになりましたか。

- ・ 佛教大学の方針・考えや学校全体のことや成績の見方、現状が把握できて、とても良かったです。又、就職関連についても詳細に説明して頂き、全体像が理解出来ました（教育・2回生）
- ・ 学校の事、授業の事を詳しく聞くことが出来てよかった（人文・3回生）
- ・ 他の保護者の方と交流が持てたこと。大学の学生に対する支援が理解できた（社会福祉・1回生）
- ・ 各々の学部の部長が熱心に学生の為に力を発揮されている事がよくわかりました。マンモス校には出来ないきめ細かなサポートを今後も期待しています（現代社会・1回生）
- ・ 参加されていた同学年・同学部学科の保護者の方とお知り合いになれば、交流を深められた事がとても良かったと思います（中国・1回生）
- ・ 子どもの学ぶ場の雰囲気を感じられてよかった。相談にも丁寧に対応して貰えそうに思い、卒業までのことも明るく考えられるようになった（日本文・1回生）
- ・ 高校までと違い、大学は親にとってあまり関係が無いと思っていましたが、親がいろいろな相談をしても聞いていただけることを知る事ができました（歴史・1回生）
- ・ 履修制度や授業確保の事などがよくわかりました。夏休みが短い、祝日も授業が行われていること等の理由がわかりました。納得です（歴史文化・1回生）
- ・ 定期的に開催され、大学の現況がよくわかります。今後も継続してください（仏教・1回生）
- ・ 大学でのいろんな取組を実際にお聞きすることが出来てよかった。また他の保護者の方と知り合いになれてよかったです（公共政策・3回生）
- ・ 部署毎に懇談があったことが良かったです。詳しく説明を受けることができました。とても親しみやすい会合だったので驚きでした。良かったです（歴史文化・1回生）
- ・ 色々なお話を聞かせていただき、学生生活・下宿・アルバイト、多くの不安がありましたが、安心できたと思います。3回生なので、就職のことがとても心配ですが、学校として色々考えていただいている、本当にありがたいと思いました（英米・3回生）
- ・ 大学の状況や大学が学生を大切に下さっているのがよくわかりました。1回生の時に参加していればよかったです。大学が一丸となって学生のために色々下さっているのがわかり、子ども・親ともども頑張る意欲がわきました（公共政策・2回生）

5. 教育懇談会に出席され、もう少し説明を受けたかったことはどのようなことですか。

- ・他の学部の取り組みも教えて頂ければより嬉しかったです（社会福祉・1回生）
- ・学生の様々なケース（とても頑張った学生さんやよくあるミスケース等も参考になるかも）などを教えていただけることがあっても良かったと思います（公共政策・3回生）
- ・キャリア支援部より熱心にご指導くださっていることはよく分かりました。学生にはどのように自覚を促しているのかを具体的に説明が欲しかったです（現代社会・4回生）
- ・地域別の就職率などの情報がほしかった（公共政策・1回生）
- ・学内での子どもの様子（授業を受けている態度、学習の様子、学医によく相談されるケース数など）を知りたかった（臨床心理・4回生）
- ・就職活動を終えた4回生の経験談等が直接伺えるような機会があれば、是非設けて頂きたい（人文・3回生）
- ・実際の単位互換制度の利用方法（他大学の開講科目の存在を知る方法や他大学での履修手続きの方法など、具体的に親も知っておきたい）（歴史文化・1回生）
- ・就職に関する具体的な事例（ある学生はこのようにして頑張って、就職又は教員採用試験に受かった等）の話も聞きたかった（教育・2回生）
- ・卒業された方々の現在について方向性を聞いて見たかったです（人文・4回生）

6. その他、教育懇談会についてのご意見をお願いします。

- ・保護者も大学について関心を持たないといけないと感じました（社会福祉・1回生）
- ・授業参観も出来るようにしてほしい（現代社会・1回生）
- ・全体会での質問に時間をきちんと取ってほしい（教育・1回生）
- ・佛教大学生の強み・弱みは？（一般学生と比べて）（教育・1回生）
- ・過去のFAQを事前に頂くことができれば、さらに有益だったと思います（教育・4回生）
- ・長男は国立、次男は関東の私立だったのですが、丁寧に懇談会をして頂いたのは佛大だけでした。これからもよろしくお願いします（現代社会・1回生）
- ・初めての参加でしたが、親の願いは皆同じ。子どもが幸せになるのに何が親として出来るかわかったような気がします。また参加させて頂きたいと思います（教育・3回生）
- ・「奨学金ナビ」「人間力をつける」などの冊子は、事前に手元にあった方が良いのでは？内容を読んで質問も出来ましたし、余分な質問をしなくて良かったかも（歴史文化・1回生）
- ・もう1～2年前から参加すべきであった（人文・4回生）
- ・とても有意義に過ごすことが出来、参加して良かったです。先生方の説明をお聞きして、大学の色々な特色もわかり、子どもをこの大学に入学させて良かったと思いました（教育・1回生）
- ・色々話を聞くことができました。もっと早く来れば良かったと思います（教育・4回生）



『 縁日会 in 仙台 』 開催報告

平成 22 年 10 月 16 日 (土)、仙台市におきまして、平成 22 年度第 1 回「縁日会」が開催されました。

今回の縁日会は、教育懇談会 (通学課程保護者対象)、東北地区同窓生のつどい (通学課程同窓生対象)、東北ブロック交流会 (通信教育課程同窓生・在学生対象)、文化講演会、縁日会懇親会と盛りだくさんの内容でした。

文化講演会では、「こんなにもおもしろい民俗学 - 日本文化の西東 -」をテーマに、歴史学部の八木透教授の基調講演の後、東北学院大学文学部教授で本学の卒業生でもある、政岡伸洋先生をお迎えし、アットホームな雰囲気の中、対談が行われました。



教育懇談会風景



八木透歴史学部教授 基調講演



八木教授と政岡伸洋先生との対談

18 時からは、縁日会懇親会が行われ、大学教職員と教育後援会、同窓会 (通学)、鷹陵同窓会 (通信)、通信学友会の各団体から約 60 名の参加者があり、懇親を深められました。



縁日会懇親会挨拶 教育後援会 河内会長



縁日会懇親会挨拶 山極学長



政岡先生・八木先生

『 縁日会 in 松山 』 開催のご案内

今年度 2 回目は、松山市にて開催いたします。

「佛教大学縁日会 (えにしえ)」とは、佛教大学と関わりのある皆様にお集まりいただき、絆を結び、ご縁を深めていただく会です。教育後援会主催行事や、通学・通信同窓生を対象とした行事をはじめ、文化講演会、縁日会懇親会など、盛りだくさんの企画を準備しております。

特に、文化講演会は一般の皆様もご参加いただけますので、ご友人やご家族をお誘いのうえ、お気軽にお越しください (入場無料)。

詳細につきましては、1 月中旬頃、近隣にお住まいの保護者の皆様へ別途ご案内いたします。また、近隣以外にお住まいの方もご参加いただけますので、開催のご案内をご希望の方はお手数ですが、教育後援会事務局 (総務部校友課) までご一報ください。多数のご参加をお待ちしております。

と き 平成 23 年 2 月 26 日 (土)

と ころ 松山市総合コミュニティセンター
松山市湊町 7-5 TEL : 089-921-8222
JR「松山駅」より徒歩 10 分・伊予鉄「大手町駅」より徒歩 7 分

内 容 ◆「文化講演会」
※ 一般来聴歓迎。皆様お誘いのうえ是非ご参加ください (入場無料)。

◆「縁日会懇親会」
(佛教大学とご縁を結び広げる)

人とのつながりが希薄になったと言われる現代社会。佛教大学はお一人お一人とご縁を大事にしていきたいと考えています。山極伸之学長をはじめ、教職員が出席 (予定) します。ご友人やご家族とご一緒に、ご縁を繋ぎ広げてください。

松山市総合コミュニティセンター周辺詳細地図



【お問い合わせ】 佛教大学総務部校友課

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96 Tel 075-491-2141 (月~金、代表) Fax 075-495-2159

※ 詳細につきましては、近隣にお住まいの保護者の皆様へ別途ご案内いたします。近隣以外にお住いの方のご参加もお待ちしております。ご参加を希望される方は、佛教大学総務部校友課までご一報ください。

教学部だより

教学部長 八木 透

－年間登録50単位上限の実施に向けて－

本学では、これまで1年間に登録・履修できる単位上限を64単位と定めてきました。しかし来年度よりすべての学部・学科において、年間登録単位上限が50単位となります。ではなぜ64単位ではいけないのでしょうか。

文部科学省の大学設置基準は、1単位の認定に必要な学修時間の標準を、授業以外の勉学も含めて45時間と定め、「実質重視の単位認定」を求めています。大学におけるほとんどの科目は2単位ですから、90時間の学修が必要であることとなります。実際の授業では、1コマ1.5時間（90分）を2時間と計算していますので、2時間（120分）×15週＝30時間です。残り60時間は授業時間以外に自ら勉強しなければならないこととなります。この基準に従って、これまでの本学における単位上限、すなわち1 Semesterで32単位を登録・履修したとすれば、4月から8月まで、一切休日なしで1日に10時間程度の学修をしなければならないこととなります。このように、少なくとも大学設置基準に依拠して単位計算をすると、1 Semesterで32単位、1年で64単位という数字は、あり得ない単位数であるということがお分かりいただけると思います。さらに大学基準協会による外部評価でも、1年間の登録単位上限が64単位であることに對して、速やかに是正するように指導がなされています。

では年間登録単位上限が50単位となることで、学生たちにいかなる影響があるのでしょうか。何



よりも、これまでのように必要な科目以外にたくさん科目を登録して、ひとつでも合格できれば、卒業に必要な単位数が確保できるという、いわゆる学生たちの間では「保険」とよばれてきた登録の方法が不可能に近くなるということです。このことは換言すれば、本当に必要な授業科目だけを厳選して登録し、一旦登録した限りは真摯に授業に取り組んで、必ず合格しなければならないということを意味します。さらに年間登録50単位上限は、免許・資格関係の科目にも適応されますから、今まで以上に卒業後の進路を真剣に見据えながら、必要な授業科目を登録・履修することが求められるようになります。

このように、「実質重視の単位認定」の制度を採用することによって、学生たちが真剣に授業に取り組むことから、これまで以上に充実した学生生活の実現が予測されます。この点をぜひご理解いただき、本学の取り組みにご協力をお願いしたいと思います。

学生部だより

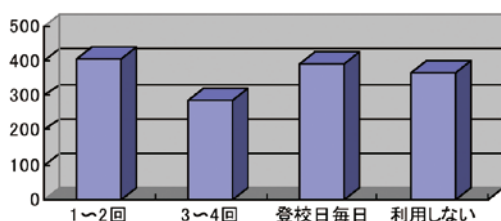
学生部長 谷川 至孝

1. 学内食堂に関するアンケート調査

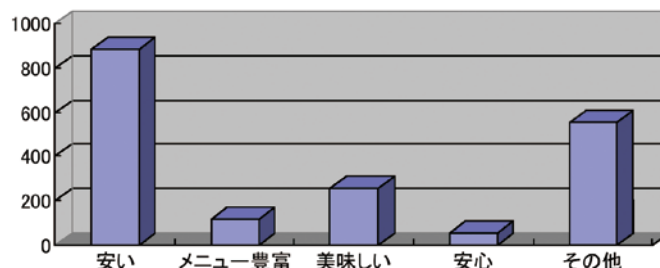
9月のオリエンテーション期間中に、学生を対象として食堂に関するアンケート調査を実施いたしました。学内厚生施設の改善を目的とした調査でしたが、学生の食生活をうかがい知れる結果ともなりました。その一部をご紹介します。(回収数 1456)

まず、グラフ1から、学生の半数近くが週3～4回以上食堂を利用していることがわかります。そして食堂を利用する理由はグラフ2より、圧倒的に「安価」がその理由です。次にグラフ3は食堂以外で昼食をとる場合の食事ですが、コンビニやパンが多くを占め、お昼抜きもあります。

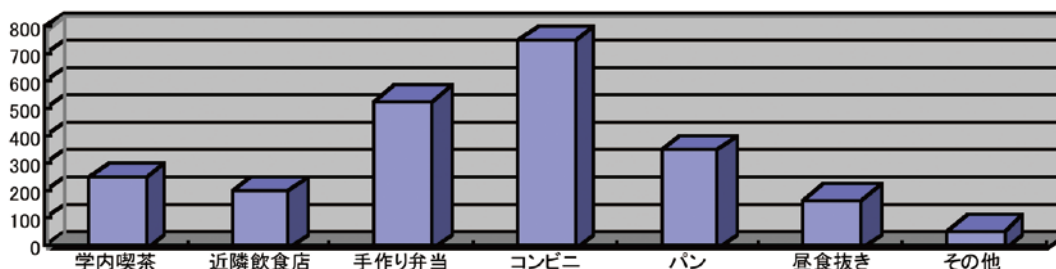
こうした数字からは、安価で手軽に昼食をすませる学生の姿が浮かび上がってきます。今日、小学校では「食育」が重要なテーマとなっていますが、本学でも「食」にかかわる取り組みの必要性を感じます。



グラフ1 週何回食堂を利用するか



グラフ2 食堂を利用する理由



グラフ3 食堂以外での昼食

2. 禁煙キャンペーン

10月末の学園祭期間中、昨年に引き続き今年も禁煙キャンペーンを行いました。今年もタバコマンが中庭に登場し、附属幼稚園の子どもたちに囲まれ大人気でした。今回の目玉は「タバコの煙に含まれている科学物質瓶」で、液体や気体の見本が30個並びました。

学園祭期間中に限らず保健管理室では、ニコチンパッチ等を利用した禁煙サポートを予約制で行っています。



「学生相談室Q & A」

学生相談室カウンセラー 實藤 聡子

こんにちは、学生相談室です。学生相談室は、学生の皆さんにとってなんでも相談できる身近な存在です。保護者の皆様方にとりましても、いざというときに相談していただける場所として覚えて頂けたら幸いです。

今回は学生相談室についてよくご質問を受ける事柄について、Q & A方式でご紹介させていただきます。

Q 1、どんな相談が多いですか？

教室の場所が分からない、履修登録の方法が分からない、一人暮らしの具体的なアドバイスなど、具体的実的な情報提供から、将来の方向性が見えないなど進路・就職に関する相談、また「眠れない」「食べられない」など深刻な症状を伴うような相談まで、様々な相談をお受けしています。

大学生活で不安に思ったり、気になっているけれど誰に相談したらいいのか分からないことなど、なんでもまずはお話を伺うようにしています。

また、大学では、いろいろな窓口があり、どこに相談したらいいか分からないことも多いので、まずは学生相談室のカウンターで声をかけていただければ、必要な場合には学生課、教務課など最適な窓口にご紹介させていただきます。

Q 2、子どもの様子が心配だが、学生相談室をどう勧めたらいいのか分からない。保護者が相談してもいいですか？

保護者の皆様からのご相談もお受けしています。保護者としてどのように子どもに対応したらいいのかというご相談もお受けしています。電話でのご相談も可能です。

「あなたのことが心配なので学生相談室に電話してみた。カウンセラーはとても話しやすかったし、あなたにもいつでも連絡してと言ってくれたので、1度行ってみたら？」というような勧め方をすると、初めての場所への不安感が減って来談につながりやすいようです。

それでも不安な様子なら、いきなり相談ではなく、コミックや小説などの貸し出しやランチタイム（月・水・金の昼休みにリラックスペースを提供しています。お茶を用意してカウンセラーがお待ちしています。）やグループワーク企画も開催していますので、少し学生相談室の雰囲気を見に行ってみるから提案されるのもよいかもかもしれません。

Q 3、いきなり相談に行っても対応してもらえますか？

紫野キャンパスの相談室は月曜日から土曜日までの9時半から17時まで、3名のカウンセラー（臨床心理士）が常駐しています。相談は予約を優先していますので、来談されたときに少し待っていただいたり、別の日に出直していただくこともあります。できる限り来られたときにすぐお話しできるようにしています。

可能な場合は事前にお電話頂けますと、こちらのスタッフも準備してお待ちすることができますので、よりスムーズにお会いできるかと思います。

Q 4、相談すると大学の先生方にも伝えてもらえますか？

基本的には相談内容や来談されているかどうかについても、相談室の外には情報が出ないように慎重に対応させて頂いています。そうでないと、来談されるご本人は安心して相談することができなくなってしまうからです。

しかしながら、連携の必要がありご本人の承諾を得られた場合には、学相から学科やゼミの先生、教務課、学生課、保健管理室などに必要な情報を伝えサポートをお願いすることもできます。また、ご本人の承諾を得られた場合には、保護者の皆様へ状況の説明やアドバイスをさせて頂くこともしています。

お子様が大学に入学されてホッとされたのも東の間、大学生活を有意義に過ごせるだろうか、卒業後の就職はどうなるのだろうかと不安に感じられる方も多いのではないのでしょうか？大学生にもなれば自分で道を切り開いて欲しいという思いと、まだ未熟な部分の多い子どもに全て任せていて大丈夫だろうかという不安との間で揺れておられるかもしれません。また、ご自分の若い頃とは大きく変化した社会の状況に戸惑いながら、どうアドバイスしたらいいのか難しいと思われることもおありになるでしょう。

学生相談室も保護者の皆様と一緒に、お子様が成長し、大人になっていくことをサポートさせて頂きたいと思っています。何かお困りのことがあればまずはご連絡下さい。お待ちしております。

学生相談室直通番号 075-493-9095

(月～土 9:30～17:00)

ヘルスリテラシーについて

保健管理室長 漆葉 成彦

一昨年は、新型インフルエンザの流行で右往左往していた保健管理室も、昨年はほぼ平穏に過ぎました。大きな事件がないとあまり目立たない保健管理室ですが、それでもいろいろと大きな役割を果たしているのです。保健管理室の役割として思いつくのは、普通はけがや急病の対応と健康診断でしょうが、このごろは健康教育ということが大きな役割と考えられるようになってきました。健康教育の目標は一言でいってしまうと、ヘルスリテラシー（耳慣れないことばですが）と呼ばれる力を身につけてもらうことです。リテラシーとはもともと「読み書きの能力」という意味の英語なのですが、今では自分にとって必要な情報をさまざまな情報源から引き出し、それを活用する能力のことをいいます。大学の教科にもリテラシーと名付けられた一群があります。たとえばコンピュータの活用法を学ぶ講座や日本語文章表現などがリテラシーとして分類されています。

ヘルスリテラシーというのは、健康を保つために必要な情報をうまく引き出して活用する能力のことです。家族や医師・看護師からのものが、病気や健康に関する情報のほとんどすべてであった昔とちがって、今はインターネットに情報があふれています。これまで聞いたことのない病名や薬についての情報も、インターネットを利用すればすぐに情報が手に入るのが現在の状況です。便利な時代だともいえますが反面危険な状況でもあります。インターネットには正しい情報だけでなくあやふやな知識による誤った記述、時にはわざと事実をねじまげているとしか思えないような文章もあるからです。たとえば、タバコについてもその害についてきっちり説明されているホームページもあ

れば、タバコの害など利点に比べればほとんど問題にならない、と主張するものもあるのです。学生の皆さんにとって、こういった情報の中から正確な情報を選び活用することは昔に比べてはるかに難しくなっているのです。タバコについていえば、その害についての情報を集め、正確に理解し、タバコを吸うかどうか自分自身で判断する力がヘルスリテラシーです。このためには、肺や心臓の構造や働きや依存症の成り立ちなどについての一般的な知識をもっていることと、確かな情報がどこから得られるのかということを知っていることが重要なのです。

保健管理室には、現在学医（非常勤）以外に3人の常勤職員（看護師）がおります。保健管理室の職員が授業の枠を持っているわけではありませんが、ちょっとしたけがや病気の相談、禁煙のキャンペーンなどを通じて学生の皆さんに健康についての基本的な知識と考え方を伝えるという大きな役割を果たしています。今後も飲酒や喫煙、熱中症など特に学生生活と関わりの深い問題についての説明会を企画実施するとともに、地域の保健所と連携してさまざまな啓発活動を進めていきたいと考えています。とりわけ喫煙については、佛教大学が平成24年からの敷地内完全禁煙（今は建物内禁煙です）を宣言したこともあり、さらに積極的に喫煙の害に関する啓発活動と既に吸っている人のための禁煙支援活動を進めていく予定です。

けがや急病で困った時だけの保健管理室ではなく、ヘルスリテラシーを高めるためのセンターとしての保健管理室を気軽に利用していただくようお願いいたします。

ボランティア室 活動報告 (2009 年度)

ボランティア室では、学生のボランティア活動を支援・促進するため、年間を通してさまざまな活動を行ってきました。以下、2009 年度の活動を報告いたします。

■ボランティア参加人数

2009 年度の在学生のボランティア参加人数（ボランティア室へ届出のあった人数）は、計 336 名です。

ボランティア室では、ボランティア活動を大きく二つ①施設・団体等でのボランティア活動 ②公立学校・園でのボランティア活動に分けています。

① 施設・団体等で活動した人数は、78名です。

ボランティア内容別の詳細は、「こども・青少年」が 10 名、「障がい児」が 4 名、「障がい者」が 2 名、「高齢者」が 5 名、「地域活動」が 57 名でした。

参加人数の中には、ボランティア室の掲示板を見て活動先を探した学生も含まれていますが、多くが大学教員の紹介であったり、実習先でそのままボランティアをするというケースが多いようです。

② 公立学校・園で活動した人数は、273名です。

校種別に見ると、「幼稚園」4 名、「小学校」208 名、「中学校」51 名、「高等学校」2 名、「特別支援学校」8 名でした。

「学校ボランティア」の志望者は、将来教職を目指す学生が大半ですが、教職志望者以外では、自身の特技（スポーツなど）を生かして活動する学生も多くいます。

■ボランティア団体説明会

ボランティアに興味や関心を持った学生が、今後のボランティア活動につなげていけることを目標として、毎年春学期内に開催しています。

ブース形式で行っていますので、興味を持った団体へ学生が足を運び、直接、施設・団体担当者から話を聞いてもらうことができます。

2009 年度は、当初の開催予定であった 5 月に新型インフルエンザ流行による休講期間が発生したため、7 月に延期となりました。

参加学生数は昨年度よりもやや減少したものの、施設・団体担当者からの話を熱心に聞いたり、積極的に質問をする姿が多く見受けられました。

説明会を通して様々な施設や団体と交流を持つことができ、今後のボランティア活動の幅を広げることができたと思います。

<開催日時> 平成 21 年 7 月 6 日 (月)

15:00 ~ 18:00 (入退場自由)

<開催場所> 鷹陵館 1 階 多目的ホール

<参加団体 (施設種別) >

参加団体は、こども・青少年・障がい児・障がい者・高齢者・まちづくり・病气・環境 等

■ボランティア体験ツアー

「ボランティア活動に関心があるが、一人では行きにくい」「最初は誰かと一緒に行きたい」という声が学生から寄せられたこともあり、数年前からボランティア室の企画として実施しています。

体験ツアーの場所は、大学の近隣施設に協力をいただきました。

2009 年度は、2 月 15 日 (月) に『高齢者福祉施設 紫野』へ行き、参加人数は 4 名でした。

今後の実施日については未定ですが、学生から「ボランティアに行きたい」という相談が寄せられたら、その都度学生スタッフ

がツアーを計画します。1 回生も気軽に声をかけていただければと思います。

■ボランティア講座

「ボランティアに関しての不安や疑問を解消してもらいたい」というスタッフの思いから、ボランティア初心者や興味を持った学生を対象に、2009 年度より始めた企画です。

2009 年度は、6 月 24 日 (水) に「ボランティアのいろはって?」・「ボランティア室ってどんなところ?」・「夏休みのボランティアイベント (紹介)」を福祉教育開発センターの金田喜弘先生に講義いただき、その後、ボランティアスタッフと参加者との間で意見を交わしました。今後もテーマを立てて開催していきますので、ぜひ積極的に参加するようお声掛けをお願いします。

■佐用町災害ボランティア

2009 年 8 月 9 日、台風 9 号による記録的な豪雨に見舞われた兵庫県佐用町では、町全体に壊滅的な被害が出ました。佐用町災害ボランティアセンターと本学教員からボランティア派遣についての打診を受けたこともあり、急遽、8 月 21 ~ 26 日 (6 日間) の日程で災害ボランティアを募りました。

その結果、佛教大学の教職員・学生・他大学の学生からも参加の申し出があり、延べ 90 名で現地へ向かいました。

ボランティア室としては、今回のような『災害ボランティア派遣』に対する体制がまだ整っていません。今後敏速に対応することができるよう調整を進めていく予定です。



■鷹陵祭でのリユース (re-use) 活動

社会福祉研究会 (課外活動団体) との共催で活動しています。鷹陵祭時に模擬店で使用する食器は、何度も繰り返し洗って使用できる (リユースできる) 食器を導入しています。

繰り返し使うことで、使い捨て容器を利用する場合と比較して、ごみの量やエネルギー消費量、二酸化炭素 (CO₂) の排出量といった環境へ与える負荷が少なくなり、地球温暖化の防止、地球環境の保全につながります。

佛教大学生にも、鷹陵祭期間に『ボランティアスタッフ』として活動してもらっています。環境問題に関心のある方は、ぜひ参加してもらいたいと思っています。



■機関紙『maitri』の発行

(ボランティア室前・学生課前に設置しています。)

学生スタッフ自身で、発案から執筆までを行っています。

『maitri』は、学生の目線からボランティアに関する記事を書くことで、在學生にボランティア活動を身近に感じてもらうことを目的としています。

内容は、ボランティア体験談・ボランティアの探し方 (募集案内等)・ボランティア団体へのインタビュー・ボランティア室イベントの案内・活動報告が中心です。

今後も皆様の意見を取り入れながら、学生・教職員スタッフ一同ボランティア企画に取り組んでいきたいと考えています。

何卒ご支援をくださいますよう、よろしく申し上げます。

キャリア支援部だより

キャリア支援部長 松尾 俊秀

■大学におけるキャリア教育 —これからの「キャリア」について考える—

昨今、私たちは、新聞等の就職活動に関する記事において“超氷河期”という言葉を見ない日はないという状態です。文部科学省の2010年5月1日付の調査統計によりますと、2010年3月に日本の大学を卒業した全学生541,000人に対して、就職したのが329,000人(対卒業者比率60.8%)、進学したのが73,000人(対卒業者比率13.4%)という数値になっています。同調査統計に本学の実情をあてはめると、卒業した全学生1,444人に対して、就職したのが1,009人(対卒業者比率69.9%)、進学したのが113人(対卒業者比率7.8%)という数値になります。就職した対卒業者比率は文部科学省の調査統計数値を上回っているとはいえ、決して喜ばしい数値ではありません。本学でも就職した学生の数値は前年度に比べて下降しています。今年度はさらに厳しい状況になると予想もしています。

就職活動に関する“超氷河期”と同じように、私たちが頻繁に目にするようになったのが「キャリア」や「キャリア教育」「キャリア支援」という言葉です。国の方針により、2011年4月より大学においても「就業力養成(キャリアガイダンス)」が義務付けられ、本学も含め、既にいくつかの大学が独自のキャリア教育プログラムを推進しています。しかし、総じて言えば、(乱暴な表現ですが)「これまでの就職指導とさして変わりのないもの」と指摘できるものばかりだと私は感じています。本学においても「キャリア支援部」として組織立てられてはいますが、実態は「進路・就職指導に特化している」と言っても過言ではありません。もちろん、進路・就職指導はととても重要なことで、私は軽視するつもりはありませんし、決して軽視いたしません。しかし、私は、進路・就職指導の前に、大学が、あるいは学生がしなければならないことがあると考えています。それは、学生たち一人ひとりが自分をもつ(以下、ここでは「自己形成」と表現します)ことです。私が大学内の様々な場面で出会う学生たちに、「何のために大学に来たのか」とか「大学で何をしたいのか」という類の質問を投げかけています。これらの問いに対する学生たちの回答は、前者に対しては「えっ…(以後沈黙)」「何となく」「親が行けと言ったから」「みんなが行くから」「入れる大学だったから」など、後者に対しては「ん〜…(以後沈黙)」「教員免許」「クラブ活動」「バイト」などです。私は、これらの質問を意地悪な感情から学生たちにしてはいる訳ではありません。学生たちがこれから行う就職活動の中には、「どうして本社を希望するのか」「大学で何を学んだのか」「大学で何をしたいのか」という類の、いわば「動機」や「事実」に対する質問が必ずと言っていいほど

あります。これらの質問に回答するためには、自己形成がしっかりとできていないと回答することができません。私は、学生たち一人ひとりが自己形成をすること、あるいは自己形成ができるようになることこそが、進路・就職指導の前にしなければならないことではないかと考え、それが「キャリア教育」だと考えています。

自己形成をしていくには、特別に用意された場面(教育)より大切にしなければならないことがあります。それは各学部学科の人材育成等の理念(本学では3ポリシーと称しています。詳細は大学ホームページ等をご覧ください。)を中心にした日々の学び(学生生活)です。私は、この日々の学び(学生生活)の中にこそ、本当の意味での「キャリア教育」があると考えています。大学関係のある調査によりますと、「大学の正課科目の授業をしっかりと受けるだけで、社会が求めるコミュニケーション能力やリーダーシップ力が十分に養えると感じた」という学生の声もあると確認しています。本来、大学の授業とは、社会人の基礎力のようなものを育てる内容も含まれているものです。つまり、学ぶ側の姿勢により、学ぶ側にとっても強い味方となり、さらには、様々な力をつける手助けをしてくれるのが大学の授業なのです。特設された「キャリア講座」などを受講するのも有意義ですが、教職員からの指示や命令で動く(学ぶ)より、学ぶ側が自分自身をしっかりと見つめ、自己分析をし自己形成をするための学びに自覚めることが何よりも重要なのです。そのことに気づいて、その気づきを実行していく力をつけることが、私が考える「キャリア教育」であり、それこそ知の最高学府である大学の使命だと考えています。学生たち一人ひとりが自己分析をし自己形成をすることは、キャリアという言葉を借りると「キャリア形成」となります。大学生時代は「キャリア形成」の時期です。しっかりと「キャリア形成」をし、社会人となった後は、それを土壌に「キャリア発達」へと転じなければなりません。しっかりと自己形成・キャリア形成は、「超氷河期」と同様に問題となっている“早期離職”を防ぐひとつの素養ともなります。企業組織に加わることを優先としてしまう会社とのミスマッチを防ぐひとつの素養ともなります。自己形成(キャリア形成)が重要だとの「気づき」に惜しみない支援をするのが私(キャリア支援部)の役割だとも考えています。今、私は、新しい取り組みとして、学生の授業の空き時間を利用した「勉強会」を実施していくことも検討しています。硬い内容のものではありません。自己分析から自己形成への一助になればという考えのものです。授業の空き時間を利用するのは、課外活動やアル

バイトに影響を与えたくないからです。課外活動やアルバイトも（意識を持てば）自己形成のためには重要なものです。学生たちの皆様からの申し出により、学生たち一人ひとりと日程を調整し、実施しようと考えています。

本学の教育職員は「建学の精神」にふさわしい学問・研究を教授し、本学の事務職員は「建学の精神」にふさわしい人間力涵養に全力を注いでいます。また、言うまでもありませんが、学生の皆さんに対して深い愛情を持って接しています。だからこそ、時として厳しく接することもあります。その中から、学生の皆さんが自らイノベーションを起こすような支援ができれば

と私は考えています。当然、大学の支援だけでは為しえないことが多々あり、保護者の皆様方のご支援やご協力が必要になります。日々の生活で礼儀作法等を身につけておかなければ、特設された講座を受けても付焼刃なものになり、社会人・大人として通用しないことがあることは、保護者の皆様のご承知のとおりです。大学は惜しみなく全力を注ぎますが、保護者の皆様方のご援助も必要不可欠なものであります。保護者の皆様と大学の教育職員・事務職員の三位一体の支援がこれからの時代は益々必要になります。この思いをご理解いただき、何卒、ご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

■インターンシップについて

本学インターンシップは、正課共通科目群キャリア科目のプログラムです。インターンシップには、民間企業で行う「一般インターンシップ」と学校現場で行う「教育職インターンシップ」の2種類のプログラムがあり、事前研修・実務研修・事後研修で構成しています。

まず、「事前研修」では、社会人としての基礎知識、マナーやコミュニケーション等の研修を行い、「実務研修」では、実際の現場で自ら就業体験をし、そして「事後研修」では、個々のインターンシップの体験を振り返り他の研修生と考えを共有することでその後の専門教育や就職活動への向上に繋げております。

インターンシップを経験することによって、様々な人との出会いや新たな学びの発見そして新たな事象による気づきや職業観・労働観に対する自覚が生まれます。そのような「自覚」によって、日々の学生生活の過ごし方に改善がみられ、「自ら学ぶ」という姿勢へと変化していきます。

キャリア開発課では今後も引き続きインターンシップを中心としたキャリア教育の充実を図ってまいります。より多くの学生に参加していただきたいと考えますので、1・2回生の保護者の皆様は、是非インターンシップへの参加をお勧めください。

また、インターンシップ研修を受入れていただける企業・団体がございましたらご紹介ください。

▼平成22年度一般インターンシップ受講者数

	2回生			3回生			4回生			総計
	女	男	合計	女	男	合計	女	男	合計	
文学部	9	2	11	45	10	55	0	0	0	66
教育学部	1	0	1	5	1	6	0	0	0	7
社会学部	7	1	8	26	28	54	0	0	0	62
社会福祉学部	2	0	2	8	0	8	0	0	0	10
保健医療技術学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	19	3	22	84	39	123	0	0	0	145

▼平成22年度教育職インターンシップ受講者数

	2回生			3回生			4回生			総計
	女	男	合計	女	男	合計	女	男	合計	
文学部	2	3	5	24	33	57	0	0	0	62
教育学部	3	0	3	10	3	13	0	0	0	16
社会学部	0	1	1	3	13	16	0	1	1	18
社会福祉学部	1	3	4	5	4	9	0	0	0	13
保健医療技術学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	7	13	42	53	95	0	1	1	109

▼インターンシップ受講者数推移

	受講者	
	佛教大学	大学 コンソーシアム京都
平成16年度	81	9
平成17年度	127	49
平成18年度	127	41
平成19年度	203	19
平成20年度	243	6
平成21年度	226	4
平成22年度	254	7

■就職・進路支援について

正課の授業や課外活動で学ぶ多様な知識と体験を、自身の具体的な経験値として蓄え、就職活動はもとより社会人として必要な人間力へと発展させることを目標に支援を行っています。1回生対象のキャリアアワーから学年ごとに、学生の志望に応じて企業、教員、公務、福祉、保健医療の領域ごとのサポートを展開しています。無料のガイダンスやセミナーでは、社会の現状認識を深め働くことへの意識向上をめざし、具体的な選考試験対策や就職試験に必要なとされるスキルの獲得のためには有料の各種就職講座を用意しています。

また、厳しさを増す一方の就職活動において、学生たちは多くの不安や疑問を抱えます。氾濫する情報のなかで何が大切なのかを見失う例も見受けられます。そういった学生たちへのサポートとして個別面談を重視しています。キャリア支援部のスタッフは質問がある学生と随時面談を行っておりますが、それに加えてさまざまな業界経験者であるキャリアアドバイザーを置いています（平成22年度は8名。面談は予約制）。

さらに、多くの事業所や自治体の資料、各種選考試験の対策本、卒業した先輩方の就職活動報告書等も取り揃えておりますので、学生の皆さんには気軽に足を運んでキャリア支援部を活用していただきたいものです。

佛教大学大阪就職支援サテライト 2010年10月1日開設

「佛教大学 大阪就職支援サテライト（PASONA 学職カフェ）」を「株式会社パソナグループ」との提携のもと、2010年10月1日に開設しました。これは、昨今の就職氷河期再来に向けて、企業への就職支援強化のために、関西の拠点大阪駅・梅田駅近くに開設しました。

紫野キャンパス同様、キャリア・アドバイザーによる個別就職相談、書類添削、面接対策等が受けられます。早くも10月1日に会員登録した3回生の学生がおり、月ごとのセミナーにもたくさんの学生が受講しています。このほかパソコン利用、就職活動中の休憩や学習スペースとして利用できます。

利用時間：平日の13:00～18:00（土日祝休み）

場 所：大阪市北区芝田 阪急ターミナルビル 11F

■キャリア支援部スタッフからのコメント

■「こうしたほうがいいですか?」、「これで大丈夫ですか?」面談中の不安そうな顔をした学生の口からきまったように出る言葉です。就職活動、志望動機、自己PRに完全なもの、模範解答はありません。「自分の想いをいきいきと語る」それには迷いながらも努力し、あがいている等身大の自分を認めることが不可欠です。職員として、冷静な頭と暖かい心で、話を聴き、学生を後押ししていきます。「自信を持って!」私がいつも学生にかける言葉です。（小西）

■「誠実さ」多くの事業所様より、このような佛教大学生の印象を伺います。この誠実さは就職活動においては活発さや積極性がないと捉えられてしまうことが多くあります。

しかし誠実であるということは、入社してから、人の意見を受け入れて、真面目に働くことができる入社後の評価の高い人材ともいえます。

社会に出る一人ひとりの学生が成長していけば社会も変わっていくと思います。キャリア支援部では、そのような誠実な学生をサポートしていき、社会を変えていきます。（武井）

■キャリア支援部を訪れる3回生が日を増すごとに多くなり、学生と面談する機会も増えました。「就職できるか不安」という学生も少なくはないですが、話を聞くと不安だけでなく将来への希望もしっかり抱いている様子です。その希望を実現するためにも、不安から一歩踏み出させることのできる職員であり続け、学生一人ひとりに合った内定につながる適切な指導やサポートをしたいと想います。（木村）

■学生からは、就職活動中に最も頼りになるのは、身近にいてくれる親であるとよく聞きます。面接などで「不合格」となると、まるで自分を否定されたような「自己否定感」を感じる場合があります。こんな時、彼らを「肯定」してあげられるのは、最も身近におられる保護者や家族の存在であると思います。活動がうまくいかない時でも、親に話を聞いてもらい、そっと勇気づけてもらおうと前向きな気持ちになれるようです。ぜひ保護者の皆様には、彼らの良き理解者、よき肯定者としてご理解とサポートを宜しくお願い申し上げます。（田中）

「地域で学ぶ、地域に学ぶ」 佛教大学コミュニティキャンパス

本学は、京都府南丹市、京都市上京区北野商店街の2地域と「コミュニティキャンパス協定」を結んで、教育・研究の交流をすすめています。

「コミュニティキャンパス」とは、地域振興、教育、福祉などさまざまな課題を、佛教大学の学生・教員が地域の人々と一緒に取り組んでいくことを取り決めた地域です。地域全体を本学のキャンパスと考えて活動しよう、「コミュニティキャンパス」の名称はここから来ています。

<コミュニティキャンパス南丹（京都府南丹市美山町）>

本学は、2004年2月、(旧)美山町(2006年1月に南丹市と合併)と協定を結び、町内に設けた本学施設「美山荘」を拠点に、地域調査研究、フィールドワーク実習授業の実施、地域行事への参加、まちづくり講座の開催などの活動を推進しています。



佛教大学「美山荘」
(南丹市役所美山支所より徒歩5分)



コミュニティキャンパス南丹での活動について（抜粋）

■フィールドワーク

地域振興、教育、福祉などを研究テーマに実習・演習・インターンシップなどを「佛教大学美山荘」を拠点に、充実した社会資源活動を活用した地域の人にも加わっていただく形のフィールドワーク授業を展開しています。

■美山フォーラム

「美山フォーラム」とは、本学と南丹市と美山まちづくり委員会とが主催するフォーラムで、美山町の地域活性化を目的とし2006年度より毎年美山文化ホールで開催され、美山町内外から多くの方が来場し熱心に耳を傾けております。

「美山の魅力と可能性」を共通テーマに、中山間地域のまちづくり課題である「モデル・フォレスト推進」、「Iターン・Uターン定住促進」、「特産品開発と販売」、「景観・環境保全」の4つの話題に絞って行われております。

本年度の美山フォーラムは、2月下旬に実施予定です。



美山フォーラム（2009年度）

■農業体験

美山荘が所有する田畑で、地元の農家の方より指導していただき、もち米、サツマイモなどを栽培いたします。

本年度は、作付けを5月16日に、収穫を9月12日に実施しました。

収穫物は附属幼稚園や福祉施設、野宿者支援施設などへの餅つき、地域交流活動に利用しています。



農業体験収穫風景

■美山産官学公連携協議会

2007年度に発足した地域住民・行政・本学が地域発展と人材育成に寄与し、効果的に連携・協働事業を推進するために美山産官学公連携協議会を創設しました。協議会では、定住者促進・特産品開発・景観・環境保全・モデルフォレスト推進の4つのプロジェクトが実施され、その内のモデルフォレスト推進プロジェクトでは、行政や地元、企業と協定を締結し、美山町宮脇地区で、植樹や間伐、下草刈りなど、里山保全を行っています。



モデルフォレスト活動（間伐）

本年度は、7月18日に下草刈、11月6日に間伐を実施し、それぞれ学生・教職員合わせて約30名が参加しました。

また、景観・環境保全プロジェクトでは、6月5日に美山町内の河川清掃・整備活動を行う「美山クリーンリバー作戦」の参加や、自然観察会などへ参加しております。

その他のプロジェクトも地域住民・行政・本学教員との会合が頻繁に行われ、地域発展のため、活発な議論が交わされております。



<コミュニティキャンパス北野> (京都市上京区・北野商店街界隈)

北野商店街とは2004年11月にコミュニティキャンパス協定を結び、拠点施設「ゆいま〜る」を商店街の中に設け、ここを拠点に各種イベントや展示会などの開催、地域行事への参加、起業・チャレンジショップ、『北野新聞』の発行など、地域と大学の連携活動を企画・展開しています。



佛教大学コミュニティキャンパス北野拠点施設
(愛称：ゆいま〜る)



佛教大学コミュニティキャンパス 北野拠点施設 (愛称：ゆいま〜る)

■場所：京都子ども文化会館向かい

京都市バス 「北野天満宮前」バス停より徒歩5分
「千本中立売」バス停より徒歩10分

■連絡：TEL・FAX 075-464-0366



コミュニティキャンパス北野での活動について (抜粋)



学生Café運営実習

■チャレンジショップ

NPOやビジネスを立ち上げたい学生、コミュニケーション能力や企画力、プレゼンテーション能力を高めたい学生のための、企業家マインドをもつ人材育成を目的に、学生Café運営実習(※)やセルフヘルプ商品販売などを「ゆいま〜る」で行います。

本年度の学生Café運営実習は、8月下旬から9月上旬にかけて行なわれ、地域住民をはじめ、多くの方々にご利用いただきました。

■北野新聞

学生たちの目線で地域の中の情報を発掘し、学生の手による地域新聞が『北野新聞』(※)です。現在まで16号が発刊されており、地域の方々と一緒に、新しい地域メディアを創造し、それを地域へと還元しています。

※『北野新聞』は全学共通科目の「ロジカル・コミュニケーション」、学生Café運営実習は同じく全学共通科目「キャリアイクステンション」の実習であり、コミュニティキャンパス教育連携事業の一環です。

■北野フォーラム

「北野フォーラム」とは、本学が主催するフォーラムで、北野商店街及びその地域の活性化を目的とし2006年度から毎年開催され、今後の北野地域活性化に向けた取り組みや、本学と地域の連携の在り方について様々な視点から話し合われるとともに、北野地域界隈における地域の方々や本学のコミュニティキャンパス事業の活動について、担当者や主催者、参加者からの報告も行います。

本年度は、11月14日に開催され、地域の方々や、衆議院議員、京都市議会議員、京都市関係者なども参加いただき、意見や励ましをいただきました。



北野フォーラム (2010年度)

<酒づくりプロジェクト>

「酒づくりプロジェクト」とは、2008年度より開始された有志学生によるプロジェクトで、伝統産業品である「日本酒」を取り上げ、田植えから収穫、酒づくり、ラベル作り、瓶詰め、販売プロモーションまで農作物が商品になるまでの過程を実際に体験しながら学んでいこうというものです。コミュニティキャンパス南丹で作ったお米を使い、京都伏見の招徳酒造で蔵元と共にオリジナル日本酒を企画・立案します。

本年度は、4月29日に仕込み米の田植えを行い、9月12日に酒米を収穫しました。

その間、プロジェクトメンバーは、醸造する酒のコンセプトやラベルデザインなどについてミーティングを重ね、11月にはラベルデザインが決定しました。

収穫した酒米の仕込みは、12月初めに行われ、いよいよ2010年度の酒が出来上がります。



招徳酒造にて (2010年度)

◆コミュニティキャンパスで行われる行事やプロジェクトへの参加は、随時学内掲示や大学HPで周知・募集しております。

◆◆ 宗教情操行事 ◆◆

佛教大学で送る学生生活の中で宗教情操行事に心と身体で触れ、現在そして将来と、意義ある日々を送られるよう願っております。

佛教大学授戒会開筵

9月11日から13日まで、嵯峨釈迦堂清涼寺(京都市右京区)において佛教大学授戒会を開筵。伝戒師の中井真孝先生(歴史学部教授)、説戒師の佐藤健先生(仏教学部准教授)、山極伸之学長統括のもとで実施いたしました。

2泊3日の短い期間でしたが、日常の雑踏から離れた静かな道場において、参加者は戒を授かることの意義や人間としての生き方について、体験を通じて思慮しつつ過ごされました。

最終日の正授戒では伝戒師より戒牒が授与され、成満となりました。

【成満者内訳】 合計62名(男性19名・女性43名) = 通学生(26名)・通信生(28名)・保護者(5名)・教職員(3名)

※感想文の一部を『白道』第30号(平成23年3月14日発行)において紹介いたします。



第61回還愚の会

春と秋との年2回、法然上人ゆかりの地ほか、歴史ある寺院を巡る「還愚の会」を実施しています。

春学期5月23日(日)大阪府の四天王寺・一心寺・勝尾寺への参拝に続き、秋学期は10月17日(日)に大阪府貝塚市の水間寺・孝恩寺への拝観を企画したところ30名の参加がありました。

当日は鷹陵館1Fロビーに集合し、観光バスを使用して大阪府貝塚市へ。秋晴れの散策日和のなか、水間寺で講話をいただき拝観した後、孝恩寺へ向かいました。お勤めの後、日本文学科の田中典彦先生より国宝・重要文化財について丁寧な説明をしていただき、ゆっくり拝観いたしました。



釈尊成道会

釈尊のおさとりを讃える「釈尊成道会」を、12月7日(火)に常照ホール(成徳常照館5階)において実施いたしました。

【次第】 I部:音楽法要 II部:宗教教育懸賞企画授賞式 III部:特別講演

特別講演には、仏像の魅力をわかりやすく伝える仏像ナビゲーターとして様々なメディアでご活躍されている、仏像ガール先生をお迎えいたしました。「仏像に会いたい!?感じる旅にでかけよう?」という演題で、大変貴重なご講演をいただきました。

通信生および一般の来聴者を含め、約600名の参加がありました。

※講演内容は『法輪(宗教教育センター選書)』第18号(平成23年3月14日発行)に掲載いたします。



宗教教育懸賞企画受賞者

釈尊成道会の中で「宗教教育懸賞企画」の授賞式を執り行いました。本年(応募期間7月8日~9月30日)は、作文11点・書88点(漢字58点・漢字かな30点)の合計99点に渡る多数のご応募をいただきました。

選考の結果、次の方々への受賞が決まりました。〈敬称略/*通信生〉

〔作文の部〕

最優秀 井上 美保* (人文3)
優 秀 落合 滋* (仏教7)
木下 克俊* (仏教1)
入 選 丸山 節子* (仏教6)

入 選 小西 沙絵 (中国4)
堀川 成樹 (公共政策4)
三村加理奈* (書道教養)
中川 量太 (別科2)
山本 裕貴 (別科2)
鎌倉 弘道 (別科2)

〔書・漢字の部〕

最優秀 松村 美奈* (人文3)
優 秀 佐藤 直朗 (別科2)
松井 裕紀 (人文4)
鹿兒嶋由華 (人文3)
香林 亮運 (別科2)
生田 現氏 (別科2)

〔書・漢字かなの部〕

最優秀 南條 佳代 (博・国文学2)
優 秀 内藤 勝也 (教育4)
的場 裕信 (人文3)
入 選 鐘ヶ江友加里 (修・浄土学1)
齋藤 昌子 (歴史文化1)
北西 幸子* (修・国文学1)

「書の部」全応募作品を鷹陵祭期間中(10月28日~10月30日)に礼拝室へ展示し、多数の方にご覧いただきました。

※「作文の部」最優秀は『白道』第30号において全文を紹介いたします。

※「書の部」最優秀・優秀作品は、表装の上で1年間、礼拝室へ展示し『白道』第30号において写真紹介いたします。

◆今月のことば◆

学内の掲示伝道として毎月、法然上人の御法語や仏典から一節を選んで掲示し、ならびに解説を施した「解説カード」を発行しています。

平成二十一年九月

事柄の本質を見失わない

善導大師は『観無量寿経疏』に、本質を覆いかくす人間の煩惱を説いている。それは貪と瞋と癡という三つで、自らが行ってきた身と口と意とによってなされた行為の蓄積が原因となっている、という。

法然上人に

池の水 人の心に 似たりけり
濁り澄むこと さだめなければ
という歌がある。そこに心の中を見つめて、なお煩惱を注視している上人の姿を見ることができる。

(仏教学部教授 松永 知海)

平成二十一年十月

心は工画師のごとし

よくもろもろの世間を画く

〔華嚴經〕

「このころ」のことを梵語では「チッタ」、「工画師（＝画家）」のことを「チトラ・カラ」という。画家は絵筆で明るい、暖かい、平和な世界を描くこともできれば、それとは正反対の、暗い、冷たい、争いの世界を描くこともできる。人のこころもそのようにはたらきを秘めた、貴くも恐ろしいものである。同じ描くのであれば、互いに喜び合える

作品に取り組みたいものである。

(仏教学部教授 藤堂 俊英)

平成二十二年十月

こころよく我にはたらく仕事あれ
それと仕遂げて死なむと思ふ

石川啄木『一握の砂』

石川啄木（一八八六～一九一三）は小説家になりたかった。だが、事は思い通りに運ばず、商工会議所の臨時雇い、代用教員などを体験することになる。

歌集『一握の砂』（一九一〇年）

載録のこの一首も、不遇だった新聞記者時代の心情の表白だと思われる。旧釧路新聞社では主筆への不満が鬱積し、東京朝日新聞社では校正係の仕事に満足できなかったのだ。

ところが、そんな状況下で詠んだ短歌が、しかし却って啄木の名を不朽のものにした。不思議なものである。

(社会学部教授 高田 公理)

平成二十二年十二月

実に聡明にして

学識の深い立派な人に親しめ

スッタニパータ第三三三句

最古の仏教聖典『スッタニパータ』にあるブッダの言葉です。人生にはいろいろな人との出会いがありますが、聡明であって学識の深い人を師と仰ぐことは

ど幸せなことではありません。

ものの道理に達した学識の深い人を尊敬することにより、自身も聡明なものとなることのできるのです。思慮ある者は、このような人に親しむことにより、また他の人の心を動かすことができるのです。

この言葉は、仏教の理知的な側面を簡潔に示しているものです。

(仏教学部准教授 佐藤 健)

平成二十三年月

信とば一念に生まると信じ
行とば一形にばげむべし

〔法然上人行状絵図 第二十五巻〕

この法然上人の御詞は、『法然上人行状絵図』第二十一巻の「つねに仰られる御詞」二十七条のうち、第五条の御詞である。また、『黒合上人和語灯録』第四巻の「善勝房にしめす御詞」にも出てくる。

これは、法然教学の「信」と「行」との関係について、阿弥陀仏の本願（第十八願）によって一念・十念の称名念仏で往生することができると思い取り（「信」）、その念仏の相続を一生涯怠りなくすべきである（「行」）というように、「信」と「行」、すなわち「信心」とそれにもなう「行業」とが一致すべきであると言われている。

(仏教学部准教授 稲岡書純)

～ 自校教育について ～

平成十八年度から学長・副学長担当で全学1回生対象にはじまりました自校教育授業。本年度は山極伸之学長が全クラスを担当し、より分かり易くパワーポイントを使用して講義をされました。また、秋学期科目「佛教大学の理念と歴史」（全学生対象選択科目）は今年度より2単位科目として、学長を含む12名の先生が15回のリレー講義形式で開講されました。

宗教教育センターでは、この科目解説のために、大学の歴史や著名な卒業生を紹介し、本学への理解を少しでも深めてもら

おうと、写真を加え、分かり易くしたテキスト『佛教大学の理念と歴史』を出版いたしました。

講義ではテキストやテレビを使い、創立よりの建学の精神の説明や、卒業生の活躍記録写真を見ながらの講義に興味を持った学生が多く見受けられました。

今後、より深く自分の大学を理解し、これからの学生生活に高い目標を持ち、より良い学生生活を送って卒業していただくことを望んでいます。



〔佛教大学の理念と歴史〕

ご案内 四条センター（生涯学習センター）

佛教大学の生涯学習センターである四条センターでは、「現代社会を生きる」「仏教を極める」「教養を深める」「つどう・ふれあう」の 카테고リーに分けて、様々な公開講座を開講しています。若干の予約が必要な講座を除いて、いつでも、どなたでもお好みのテーマの時に受講していただけます。

昨年度は、事務局としましてもいろいろな出会いを経験させていただき、充実した毎日を過ごすことができました。

今年度も、受講生のみなさんとの出会いを大切にしていきたいと願って、たくさんの講座をご用意しています。

詳細につきましては「講座案内」を佛教大学四条センターまでご請求ください。

※ 受講料 1 回千円・無料講座もございます。

今年度のお勧め講座

- [現代社会を生きる] 中高年のための健康増進医学・安全管理学 - データでみる Active Ageing -
現代京都の生活語表現 - 生活語で書くこと・話すこと -
- [仏教を極める] 釈迦牟尼の生涯と哲学 - 仏教は現代に何を伝えるか -
仏教絵画を読み解く - 崇高なる美の世界 -
- [教養を深める] メディアからみた京都文化論 - ジャーナリストの論じる京都の文化と宗教 -
幕末維新の史蹟と人物
歴史都市京都の失われた景観 第二シリーズ
文学と音楽 - レコードと生演奏を交えて -
徒然草を読む - 兼好の考えをたどる -
分かり合えるとはどういうことか
- 確かな人間関係を築くためのコミュニケーション -
- [つどう・ふれあう] 写経 - 心経・法然上人法語 -
ひとくち法話 - ちょっとお耳拝借 -

お問い合わせ先

佛教大学四条センター

(京都市下京区四条烏丸北東角 京都三井ビルディング 4 階)

JR「京都駅」より市営地下鉄烏丸線「四条駅」下車すぐ

TEL : 075-231-8004

事務取扱時間 : 月～土 (10:00～17:00)

休館日 : 日曜日・祝日・大学指定日



平成 22 年度佛教大学同窓会提供講座「人間」開講のご案内

同窓会事業の一つとして、佛教大学四条センターにて開講している講座「人間」。保護者の皆様をはじめ、広く一般の皆様には生涯教育の場を提供することを目的として、平成 15 年度より行われています。今回は、パラリンピックに出場された経験もお持ちの大前千代子さんに講演いただきます。受講料は無料。是非ご参加ください。

◆ 開催日時 平成 23 年 1 月 29 日 (土) 13 時～14 時 30 分

◆ 講師 大前 千代子

(昭和 53 年 3 月社会学部社会福祉学科卒業・大阪車いすテニス協会会長、
大阪国際車いすテニストーナメント実行委員長)

◆ テーマ 「私とスポーツ」

生後 1 年半で両足に障害を持った私は、大学 4 年間の「自分を試す」生活で心身ともにたくましくなったと思います。社会に出てからも可能性を求めてスポーツに出会いました。スポーツは生き方を豊かにしてくれると思います。

◆ 会場およびお問い合わせ

佛教大学四条センター

(京都市下京区四条烏丸北東角 京都三井ビルディング 4 階)

JR「京都駅」より市営地下鉄烏丸線「四条駅」下車すぐ

TEL : 075-231-8004

事務取扱時間 : 月～土 (10:00～17:00)

休館日 : 日曜日・祝日・大学指定日



ご案内 宗教文化ミュージアム 第10回シアター公演開催

佛教大学開学100周年企画

「日本の音楽・世界の音楽 東北の民謡」

平成23年1月22日(土) 14:00～

出演：民謡奏者

解説：小野田俊藏(歴史学部教授)

【お申込み方法(申込み受付中・入場無料)】

郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加人数・公演名をご記入のうえ、

①ハガキ ②FAX(075-873-3121)

③E-mail(asia@bukkyo-u.ac.jp)

※件名は「シアター公演申込」としてください。

のいずれかにてお申し込みください。こちらよりご招待券をお送りします。申込み1週間以内に招待券が届かない場合にはご連絡ください。

◀会場およびお問合せ▶佛教大学 宗教文化ミュージアム

〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26 TEL:(075)873-3115(代)

通信教育部公開講演会のご案内 ～BUまなび隊～

平成20年度より通信教育部では「BUまなび隊～あなたの街でオープンキャンパス～」と称し、本学の教育および研究の成果を一般の方々や社会に還元するために、全国で公開講座を行っています。該当する分野に興味・関心のある方、入学希望の方をはじめ、卒業生や在学生も参加できます。参加は無料ですので、これを機会に佛教大学での新しい「学び」に触れてみませんか。ご友人、お知り合いの方々も一緒にお気軽にお越しください。ようご案内申し上げます。

日程	会場	講演内容	教員
1月22日(土) 13:00～15:00	ベルサール八重洲 東京都中央区八重洲1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル (会場定員170名)	講演：正月行事の西東 ～食文化を中心として～ お正月は、1年で一番おめでたい年中行事。なぜお正月はめでたいのでしょうか。これは大きな謎です。またお正月といえば、お餅・お雑煮・お節料理…。お雑煮ほど地方色豊かな料理はありません。正月の食文化を題材として、民俗学の立場から、日本の東西文化の類似性と異質性について考えてみたいと思います。 15:00～入学説明会	八木 透 (歴史学部教授)
1月29日(土) 13:00～15:30	第二豊田ホール 名古屋市中村区名駅四丁目10番27号 第二豊田ビル西館 (会場定員100名)	講演：生涯学習で学縁づくり 「無縁社会」の今、血縁とも地縁とも職縁とも異なる「学縁」が重要です。学習は家族や地域や職場を超えて、人と人との新しい「きずな」を育てるからです。尾張・名古屋には通信教育で学縁づくりを重ねた実例があります。 講演：縁にまつわる仏教おもしろ話 仏教では縁起はもののありかた、人の在り方に関わる中心の教えです。特に縁(えにし)と読む場合は、人と人との関わりを意味します。「縦は因、横は縁の糸張りて、織りなす綾絹見事なりけり」として人の在り方を教えます。いろんな視点からこれら話します。 15:00～入学説明会	白石 克己 (教育学部教授) 田中 典彦 (文学部教授)
2月19日(土) 13:00～16:30	FFB福岡 ファッションビル 福岡市博多区博多駅前2-10-19 (会場定員120名)	講演：チベット系新興宗教の歩み 虚実の程度の差はありますが、多くのカルト集団はその来歴や要素の中にチベット仏教からの伝統を詠います。先ず1950年代以降の西欧でのチベット新興宗教の起こりを考え、その日本版とも言えるカルト教団の特徴と問題点を考えてみたいと思います。 講演：現代若者宗教事情～パワースポットからカルトまで～ パワースポットやスピリチュアリティの流行、カルト教団の社会問題化など、「若者と宗教」の関わりは途切れることはありません。現代日本の若者の宗教意識を紹介しながら、そのこころの風景を考えてみたいと思います。 対談：現代若者宗教事情	小野田 俊藏 (歴史学部教授) 大谷 栄一 (社会学部准教授)

【お問合せ・お申込み】 佛教大学通信教育部学生課
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL 075-491-0239(木曜休み) fax 075-491-9469 e-mail bu-kokai@bukkyo-u.ac.jp
通信教育部ホームページ <http://www.bunet.jp>

【お申込み方法】

参加ご希望の方は事前申込みが必要です。お名前・ご住所・参加人数・電話番号をご記入の上、はがきもしくはfax、e-mailでお申込みください。

～身と心を癒すキャンパスへ～ 二条キャンパス1号館 完成間近！

いよいよ完成！ 二条キャンパス1号館

平成21年末より工事が始まった二条キャンパス。いよいよ二条キャンパス1号館の完成が間近になってきました。現在、JR二条駅周辺は、京都市の文化的・教育的拠点として立命館大学や京都府医師会館などの建物が建てられ、開発が進んでいます。佛教大学は、この一角を取得し、二条キャンパスとして校舎の建設を行ってきました。

去る8月4日には上棟式が行われ、多くの関係者が見守る中、最上階の梁がタワークレーンで吊り上げられました。その後、各フロア部分の基礎コンクリート打設、屋上の防水工事と順調に工事は進み、12月には、工事外壁も取り払われ全体のイメージを見ることができるようになりました。現在は、内装・外構工事を中心に最後の仕上げに取り掛かっているところです。完成に伴い、有志の学生達を中心になって作成した壁画も間もなく見納めになります。

二条キャンパス1号館は、地下1階・地上7階建ての建物で4月からは保健医療技術学部の学生達が学ぶ予定となっています。



紫野キャンパス工事も順調！

紫野キャンパスでは、昭和38年に建設された9号館（旧図書館）が、昨年3月に解体されてから新校舎（A棟・新校舎のI期工事）の建設が着々と進められています。9月17日には、柱が初めて立つことを祝するとともに、建物の永遠堅固を祈願する「立柱式」が執り行われ、その後に鉄骨の建て方が始まり、12月には上棟式も挙行されました。現在は各階の床コンクリートの打設と外壁組み立てが行われ、23年の完成に向けて工事が進められています。

次は1号館（旧本館）の解体へ…

昭和41年に建設された1号館。新校舎の建設に伴い、1・2階の事務局等をA棟を含めた他の建物へ移転後、8月頃に解体作業に入る予定となっています。現在の鷹陵館（体育館）が建設される前には、この1号館4階で入学式や卒業式が挙行されていました。また、この1号館は紫野キャンパスの玄関口としての役目も果たしており、教室の他に、学長室や総務課、教務課、キャリア支援部（旧就職課）などの事務局が配置されていました。近年では、2階の教室を改修し、法人事務局、教職支援センター、福祉教育開発センターなどの事務局も配置され、事務局棟としての位置づけに変わりつつある建物でした。多くの学生達が学んだ1号館。名残惜しさを感じつつ、いよいよ解体作業に入ります。

紫野キャンパス工事中へのご理解とご協力を

紫野南校地では建設・解体工事に伴い、学内および周辺で通行制限や工事関係車両の出入りが非常に多くなっています。大学内に駐車場はございませんので、大学にお越しの際には、必ず公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。また、安全には充分留意していますが、大学内および大学周辺の通行には十分ご注意ください。皆さまのご理解とご協力を重ねてお願いいたします。

平成21年度 佛教大学・佛教大学附属幼稚園計算書総括表

平成21年度の決算関係計算書概要は次のとおりです。

■資金収支計算書 (平成21年4月1日から平成22年3月31日まで) (単位 円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
学生生徒等納付金収入	9,747,216,600	人件費支出	5,681,452,931
手数料収入	571,804,570	教育研究経費支出	3,226,582,366
寄付金収入	42,640,000	管理経費支出	1,138,203,604
補助金収入	973,288,689	借入金等利息支出	38,517,819
資産運用収入	147,741,017	借入金等返済支出	122,190,000
事業収入	111,248,658	施設関係支出	2,947,889,285
雑収入	105,591,926	設備関係支出	385,253,858
借入金等収入	650,000,000	資産運用支出	900,000,000
前受金収入	1,400,921,500	その他の支出	939,749,600
その他の収入	6,389,840,955	資金支出調整勘定	△ 279,281,841
資金収入調整勘定	△ 1,802,808,737	次年度繰越支払資金	9,984,411,413
前年度繰越支払資金	6,747,483,857	支出の部合計	25,084,969,035
収入の部合計	25,084,969,035		

※ 学生生徒等納付金に占める各部門の割合は、通学課程 76.9% 通信教育課程 22.2% 幼稚園 0.9%。
 ※ 手数料に占める各部門の割合は、通学課程 62.6% 通信教育課程 37.3% 幼稚園 0.1%。
 ※ 寄付金は、一般寄付金と浄土宗からの補助金。
 ※ 補助金は、国・地方公共団体等の交付金。
 ※ 事業収入は、寮収入・四条センター公開講座受講料等の収入。
 ※ 基本金組入額は、教育施設拡充引当特定資産の組入れのほか、13号館・14号館建物工事等の施設設備・教育研究用機器備品、図書等の購入を含む。

■消費収支計算書 (平成21年4月1日から平成22年3月31日まで) (単位 円)

消 費 収 入 の 部		消 費 支 出 の 部	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
学生生徒等納付金	9,747,216,600	人件費	5,845,110,916
手数料	571,804,570	教育研究経費	3,996,409,581
寄付金	57,797,080	管理経費	1,236,402,755
補助金	973,288,689	借入金等利息	38,517,819
資産運用収入	147,741,017	資産処分差額	96,880,690
事業収入	111,248,658		
雑収入	105,591,926		
帰属収入合計	11,714,688,540		
基本金組入額合計	△ 1,012,061,502	消費支出の部合計	11,213,321,761
消費収入の部合計	10,702,627,038	当年度消費支出超過額	510,694,723

■学校法人佛教教育学園 貸借対照表 (平成22年3月31日) (単位 円)

資 産 の 部		負債の部・基本金の部・消費収支差額の部	
科 目	本 年 度 末	科 目	本 年 度 末
固定資産	(110,458,871,466)	負債	(20,187,720,406)
土地	38,392,593,202	借入金	11,271,440,000
建物・構築物	26,255,706,327	退職給与引当金	5,193,111,492
機器備品	1,026,810,915	前受金	3,723,168,914
図書	5,311,021,835	基本金	(106,345,825,877)
教育施設拡充引当特定資産	8,610,000,000	翌年度繰越消費支出超過額	(2,114,050,032)
教育施設充実引当特定資産	4,700,000,000		
四条センター基金引当特定資産	4,000,000,000		
施設拡充整備引当特定資産	297,545,000		
第3号基本金引当資産	352,720,000		
その他の	21,512,474,187		
流動資産	(13,960,624,785)		
現金預金	13,463,690,757		
その他の	496,934,028		
合計	124,419,496,251	合計	124,419,496,251

2010年度 秋学期 佛大カレンダー

月	日 程	事 項
12月	2日(木)	社会福祉ガイダンス(1・2・3回生対象)
	3日(金)・6日(月)・8日(水)	話し方セミナー(一般企業)
	5日(日)・12日(日)・19日(日)・23日(祝)・25日(土)～28日(火)	秋学期補講日
	7日(火)	釈尊成道会
	11日(土)～25日(土)	秋学期復籍手続期間
	20日(月)	卒業論文・卒業研究・卒業レポート・修士論文提出期限(3月卒業・修了)
	29日(水)～1月4日(火)	冬期休暇 ※構内立入禁止
1月	5日(水)	始講式・秋学期授業再開
	6日(木)～4月30日(土)	春学期休学または年間休学受付期間(2011年度)
	6日(木)～31日(月)	転学部・転学科許可願提出期間
	9日(日)・10日(祝)・16日(日)・23日(日)・30日(日)	秋学期補講日
	11日(火)・12日(水)	企業ガイダンス(3回生対象)
	12日(水)	就活サクセスセミナー(4回生対象)
	13日(木)	社会福祉ガイダンス(1・2・3回生対象)
	17日(月)～2月28日(月)	再入学受付期間
	24日(月)	秋学期授業終了
	25日(火)～31日(月)	秋学期定期試験期間
	25日(火)	法然上人御忌会
31日(月)	釈尊涅槃会	
2月	1日(火)～3日(木)	一般入学試験A日程
	1日(火)～3月14日(月)	転籍受付期間
	3日(木)～22日(火)	短期海外語学研修(英語)
	4日(金)・10日(木)	3月卒業・修了対象者、卒業・修了口頭試験
	7日(月)～10日(木)	学内企業説明会
	9日(水)・10日(木)	秋学期追試験(予定)
	13日(日)	大学院修士課程・大学院社会人修士課程・大学院留学生修士課程(2月)、大学院博士後期課程、大学院留学生博士後期課程、編入学、社会人編入学(2月)、留学生新入学・編入学(2月)・別科、転籍、別科入学試験
3月	5日(土)・6日(日)	一般入学試験B日程
	12日(土)	留学生送別会
	14日(月)	学位記、卒業・修了証書授与式(3月卒業・修了)
	22日(火)～5月14日(土)	佛教大学学資給付金(春学期)出願期間(2011年度)
	22日(火)～5月20日(金)	佛教大学学資貸付金(春学期)出願期間(2011年度)
	下旬～4月上旬	春学期在学生オリエンテーション(2011年度)(予定)

佛教大学教育後援会会則より抜粋

- 第2条** 本会は、大学と家庭との連絡を緊密にし佛教大学の教育振興に寄与するをもって目的とする。
- 第3条** 本会会員は、佛教大学学部生および別科生の保護者またはそれに代わる者をもって組織する。
- 第4条** 本会には次の委員および役員を置き、その任期は1年とする。但し、再任を妨げない。
- (1) 委 員 若干名、保護者の互選により佛教大学長がこれを委嘱し、重要会務を評定する。
 - (2) 役 員 会長1名、副会長1名、監事3名、委員中から互選する。
- 第5条** 本会は、次の事業を行なう。
- (1) 大学と家庭の相互連絡
 - (2) 教育に関する研究調査
 - (3) 学生教育の振興に関する事項
 - (4) 佛教大学教育後援会奨学生に関する事項
 - (5) その他必要と認めた事項
- 第6条** 本会は必要に応じて、委員会および総会を開くものとする。
- 第7条** 本会の経費は、会員の会費および篤志金をもって支弁する。
- 第8条** 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。